

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072400235	
法人名	有限会社こころ	
事業所名	グループホームこころ	
所在地	群馬県甘楽郡甘楽町大字白倉557	
自己評価作成日	平成23年5月6日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど	
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階	
訪問調査日	平成23年6月13日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日、午前中の1時間半から2時間は玄関先のウッドデッキにて全員外気浴(歩行訓練、シルバー体操、レクリエーション含むお茶会のようなもの)を行っている。
 午後夕方から夕食の時間まで1時間半程度、運動や歌などレクリエーションの時間を作っている。
 その他にも出来ることは自分で行ってもらいながら、業務的なかわりではなく、如何に利用者の生き活きとした表情を引き出すことが出来るか?という点に職員が主眼をおいて毎日のケアにあたっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎朝の玄関からウッドデッキで行うリハビリ運動(継続的・計画的な歩行・スクワット)が身体機能の維持や改善に繋がり、日常生活や行動を支えている。また、外気浴としても気分転換に一役買っている。利用料は家族の経済面を支え、利用者に対しては「自分がそうならどうか」と自分に置き換え尊敬を支えるケアに努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時や会議時に運営理念の再確認を行い、また玄関先、ホールにも書面として掲げ、利用者すべてが理念の下、快適で安心できる生活が送れるよう支援している。	地域との関係を築く理念が盛り込まれている。新入職員に対しては引継ぎ時や日常の対応時に指導している。理念に添って自分に置き換えたらどうなのかと話し利用者の尊厳を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際に顔を合わせたり庭より顔が見えた時にはこちらから積極的に挨拶をし、交流を図っている。また、地域の小学校の運動会に招待されたり、地域のイベントがある際には出来る限り参加している。近所の方から野菜を頂くこともある。	近隣住民と散歩時に挨拶を交わしたり、地域の運動会に参加している。中学校の職場体験を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、地域の区長、組長、民生委員、老人会の会長等に情報発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議が堅苦しいものにならないよう、座談会形式で毎月々の状況報告(外部評価等への取り組みも含め)を行い、気楽にどんな意見でも出してもらえよう働きかけ、出された意見はサービス向上に活かすようにしている。	地域の床屋さんや、区長・組長・民生委員・老人会長等が参加し定期的に開催されている。入居者報告・防災訓練の報告等の状況報告を行っている。行政の参加は1度だけである。	定期的に開催され状況報告され近隣住民はじめ区長も参加しているので、行政の毎回の出席をお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の状況報告等を行いながら意見交換を行い、また空きが出来た場合には真っ先に連絡し、情報をもらえるよう働きかけている。	事業所の状況報告書の提出に訪問したり、介護保険更新申請時に訪問する等で2週間に1度程度は伺い連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修機会があれば、可能な限り参加し職員全員に周知するよう努めている。また玄関の施錠も昼間の間は出来るだけせず、見守りで対応するよう努力しているが、職員によっては過去、徘徊により外出してしまった利用者さんがいる為、つい施錠してしまうことがある。	玄関は午前中開錠し午後は施錠することがあるが、昨年と比較すると開錠している時間が長くなってきているという努力が伺える。	開錠時間は長くなったが、玄関の施錠が身体拘束に含まれるという観点からは、午後からの常時の開錠に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内で具体的な研修の機会は設けていないが社協等主催の研修会があれば出来る限り参加し職員に周知するよう努めている。ホーム内では常に注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会があれば出来る限り参加し、また職員全体で学ぶ機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には条項を十分に読み上げ、不明な点がないか確認し、納得いただいてから署名を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望等があれば遠慮なく言ってもらよう促している。また苦情等に関しては事業所内の窓口だけでなく公共機関の苦情受付窓口なども説明している。	苦情相は設置しているか意見は入らないため、お便りで情報提供し面会時に意見を引き出す努力をしている。また、毎日面会に来ている家族からは「利用料が安く家族がしてほしいことをしてもらっている」という意見が出ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は職員の意見を聞くよう常に心がけている。	希望休は月に2日取れている。それ以外の休みも職員同士融通し合っている。意見等は職員が社長や管理者に直接話すことができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務形態、労働時間等は各職員の希望を出来る限り汲み取り希望をかなえるよう努力している。また研修等への参加、資格取得も出来る限り促し支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会があれば、事前に案内し、本人の希望を尊重しながら出来る限り参加してもらうよう働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特に同一地域内の事業所とはお互いに情報交換や事業所の見学受け入れ、派遣等の活動を積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用の前に管理者とケアマネで面会し、十分にコミュニケーションを図り、本人が安心してサービスを受けられるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用の前に事業所を見学をしていただいたり、管理者とケアマネで、十分にコミュニケーションを図り、要望等を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用をしない場合であっても、本人や家族の状況、要望を踏まえ、利用が可能なサービスの情報提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の下ごしらえやテーブル拭き、お茶入れ、掃除などを手伝っていただいたり、レクリエーションを楽しみながらお互いが笑ったり、泣いたり、怒ったり感情表現を出せるような工夫をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り面会に来所していただくよう働きかけ、利用者さんや職員と一緒にお茶や食事をしながら話をする機会を設けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の知り合いの方等はたまに来所してくれるので、また来てもらえるようその都度、お願いをしている。また、町内のイベント等にも積極的に参加をし、地域の人達とふれあえる機会を作っている。	新規の入居者には今まで通りの生活の支援をしている。また、手紙や電話の取次ぎ、字を書くこと等の継続した支援をしている。子どもとのふれあいとして、中学生の実習来訪に喜んでもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の悪い利用者もいるが、職員が介在することにより孤立しないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後1ヶ月くらいはこちらから連絡を取り、何かあれば協力する旨、申し出て関係を継続するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から個人個人の思いを表情や言動から把握するよう努め、それぞれの意向に沿った対応をするよう努めているが、利用者さんの希望に沿うあまり、不規則な生活リズムにはならないよう必要な場合は声掛けを行い規則正しいメリハリのある生活になるよう支援している。	家族の思いや本人の希望を会話の中や日常の行動から考えて読み取り、把握している。毎日のリハビリとしての歩行訓練やスクワットを続けることで尿失禁が少なくなり、人間としてのプライド維持に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から出来る限り詳しく生活歴を聞き取り、その人の家族構成や職歴、趣味や好きな物等の情報を職員間で共有し、それらの情報を基に本人とコミュニケーションを図りながらその人らしく生活できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で運動やいろいろなお手伝いをしてもらったり、職員とのコミュニケーションの中で個人個人の現在の心身状態の把握に努め、出来る範囲の運動やお手伝いをしてもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが主導で本人や家族から意向の聞き取りを行い、それを踏まえ、かかりつけ医や職員から出された意見やアイデアなどを取り入れた介護計画を作成している。	月に1回のモニタリングを参考に3ヶ月ごとと体調の変化等による随時の計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人個人へのケアの実践内容や気づき等で普段と違う発見があれば個人記録に記入し、その都度、申し送りで職員全員が情報を共有出来るようにしている。必要がある場合にはケアの方法を変更したり、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や利用者さんの要望を聞いて可能な限り柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント等には出来るだけ参加し、またボランティアの方々にも定期的に来所していただいて地域の方々との交流を図れる機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用の際に受診についての説明をし、全ての利用者さん、家族の同意を得、当事業所の主治医に受診している。主治医には利用者さんの体調報告を月に数回定期的に行い、状態把握してもらっている。	利用者全員が月に1回の往診等の協力医の支援を受けている。2週間に1度訪問看護の支援や緊急の場合や家族の都合によっては、ホームで受診支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医のところの看護師が月に1～2回健康管理に来所してくれている。また非常勤ではあるが看護師が勤務し健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会を1日1回はするようにし、環境の変化によるダメージを最小限にするよう努めている。また、病院担当者との情報交換を密にし、診療状況や本人の状況の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用の際に重度化した場合の指針を説明し、早めの段階から主治医や非常勤看護師を含め話し合いを行い、本人の状態、ケアの方針を共有するよう努めている。	終末期に対する家族の思いや意向が強い場合には家族にも協力を依頼し思いを大切にしたいと考えている。看取りに関する指針が作成され協力医との連携もある。緊急時には救急車を呼ぶことを職員は共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が不安を抱えているが、消防署や外部団体主催の普通救命講習会に可能な限り職員を派遣し、技術の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に最低2回は避難訓練を行い、うち1回は近隣住民、消防署の職員にも参加協力いただいている。	年に2回のうち近隣住民・利用者・職員が参加し、消防署立会いの総合訓練と指揮・避難・通報訓練の自主訓練を行っている。備蓄の用意はまだ無い。	利用者と職員が避難経路等を身に付けるために自主訓練の増加と備蓄の用意をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	たとえ認知症の症状があっても、利用者さんに対しては一人の健全な個人として、人格を尊重し、対等に接するよう心がけている。また声掛けでは命令口調や利用者さんを見下すような発言にならないよう職員全員が常に意識して対応している。	基本的に呼び名は姓に「～さん」と呼んでいる。失禁時のトイレでの更衣や入浴時の対応・消灯・利用者への言葉使い等利用者の個々の尊厳を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何が食べたいか何をやりたいか、その都度希望を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活パターンがある程度決まっているので全体的な動きになりやすいが、その中でもそれぞれの利用者が退屈しないようレクリエーションを取り入れて1日を楽しみ過ごしてもらえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪はすぐ近所の理容店にお願いしている。パーマや染髪は料金のあるので家族と相談しながら決めている。また基本的にその日に着る衣類は利用者さんに任せている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	芋の皮むきなど、簡単な作業は手伝っていただいている。また食後の洗い物も手伝って頂いている。	メニューは冷蔵庫等にある材料で職員が工夫し作り、利用者は野菜の下ごしらえを手伝い、一緒に同じ物を食べている。献立の希望も聞ける人には聞いている。食材も利用者と一緒に職員が買いに行っている。誕生日には花束・ケーキ・カードを贈りお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、朝・昼・夕の食事摂取量及び水分摂取量は正確に記録し、毎食とも旬の食材を利用し、バランスが崩れないよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず全ての利用者さんの口腔ケアを行っている。自分で出来る利用者さんには自分で行っていただいているが、職員が付き添いしっかりケア出来ているか見届けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的(1時間半から2時間程度)に声掛けを行い、トイレで排泄していただくよう誘導している。夜間でも失禁の無いよう利用者さんの毎の排尿パターンを把握し、定期的に誘導するようにしている。	おむつの利用者はいない。パットの人もできるだけはずせるように個人の排泄パターンによるトイレ誘導をしている。利用者の経済面からも夜間も誘導(3人)し、快適さに繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、屋外歩行(散歩等)やスクワット等、無理の無い程度で運動を行っていただき、また旬な緑黄色野菜を多く使った食事で排便を促すよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	タイミングは考慮しているが、入浴日等はこちらに合わせていただいている。	入浴日は週に2回と決められ、その日に全員が入浴している。	事業所が決めた入浴日を増やすことで、入れるタイミングの場面を増やしてみたいか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には本人の気の赴くままに休息してもらったりしているが、昼間からベッドで過ごすことのないよう一定のリズムに沿った生活ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく薬の処方があった際には薬局でその薬についての説明及び資料がもらえるので、職員間で情報を共有できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴は活かしきれっていないが、日々の生活の中でそれぞれの役割を職員が見出し、行っていただくことで張りのある生活を過ごせるよう支援している。月に一度くらいは気晴らしに外出(花見等)の機会を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の人員が少ないので、その日の希望に沿って外出とはいかないが、定期的に利用者全員で外出する機会を作っている。	毎日午前中の玄関先からウッドデッキを回るリハビリ運動を行っている。個人的にもふらりとウッドデッキに出たり、外気浴をしたりしている。散歩や買物に日常的に出かけている。花見や公園にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則おこなっていない(物取られ妄想や他人の物も自分の物として取ってしまう人がいる為)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある際は電話を使う対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に沿ったテーマの絵を利用者さんと一緒に描き、それをホールの壁に飾るなどして季節感を出すように努力している。また、季節の花等も出来る限り飾るようにし、より季節感を出せるように工夫している。	共用空間は天井が高く圧迫感がない。木をふんだんに使った造りで木のベンチ・木の扉などで和ませてくれる。行事の写真や理念が掲示され椅子・テーブル等が配置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の大テーブル以外にベンチを設け、一人になれる場所は作っているが、レクリエーション等を行う際には一人になっている利用者さんにも参加していただくよう声掛けを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や日用品を持ち込んでもらっている利用者さんもいるが、2/3くらいの利用者さんはプラスチックの衣装ケースを持ち込まれる方が多いので、出来る限り殺風景な部屋にならないよう、写真や誕生日祝いの品など飾るようにしている。	各居室にはベッド・整理ダンス・衣装ケース・椅子・時計・鏡・カレンダー・写真等が飾られ、それぞれ工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー構造とし、また身体機能の低下を出来る限り防ぐ為、毎日全員でシルバー体操を行っている。また、普段の生活の中で個人個人に合わせた役割を見出し、行っていただくことで張りのある生活を過ごせるよう努力している。		